

(様式第8号)

## 事業報告書 (平成31年度(令和元年度))

事業名 哲学対話の場づくり及び進行役育成事業

団体名 てつぱら岡山 担当者名 儀三武 桐子

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

#### 「対話をつくるエッセンス」全3回講座

①日時 令和元年9月1日(日) 14時~16時30分



(写真① レクチャー風景)



(写真② 全体ワーク風景)

講座名 てつぱらゼミ vol' 2「対話をつくるエッセンス」①

タイトル コミュニケーションはなぜむずかしい?

講師 松川えり(哲学者)

場所 岡山県生涯学習センター

参加者数 14名(当日1名欠席)

■内容

「コミュニケーションに難しさを感じるのはどんな時か、どんなポイントか」を入口にして、レクチャー、対話ツール「コミュニケーションボール」を使った全体ワーク等を通して、「対話とはなにか」について、実践を通して学びあう。

・オリエンテーション

・レクチャー

・全体ワーク

<休憩>

・全体ワーク

・質疑応答

・アンケート

②日時 令和元年11月10日(日) 14時~16時30分



(写真③ グループワーク風景)



(写真④ 全体ワーク風景)

(様式第8号)

講座名	てつぱらゼミ vol '3「対話をつくるエッセンス」③
タイトル	対話の地図の描きかた
講師	松川えり（哲学者）
場所	岡山県生涯学習センター
参加者数	15名

■内容

相手との対話をすすめていくポイントとして、「対話の地図の描きかた」という視点から、レクチャー、対話ツール「コミュニケーションボール」やワークシート等を使ったワーク等を通し、実践を通して学びあう。

- ・オリエンテーション
- ・レクチャー
- ・グループワーク

<休憩>

- ・全体ワーク
- ・質疑応答
- ・アンケート

③日時 令和2年1月11日（日）14時～16時30分



(写真⑤ レクチャー風景)



(写真⑥ グループワーク)

講座名            てつぷらゼミ vol' 2「対話をつくるエッセンス」②  
                     ※台風接近のため10月開催を1月に延期開催

タイトル        相手を理解する質問

講師             松川えり（哲学者）

場所             岡山県生涯学習センター

参加者数        15名

#### ■内容

コミュニケーションの基本である「質問」をテーマに、レクチャー、対話ツール「コミュニケーションボール」を使ったワーク等を通し、「相手を理解するための質問とは」について、実践を通して学びあう。

- ・オリエンテーション
- ・レクチャー
- ・グループワーク

#### <休憩>

- ・グループワーク
- ・質疑応答
- ・アンケート

#### 2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

様々な社会課題に対して、多様な主体で向き合い、活動をすすめていく ESD の考え方の基本として、対話のエッセンスと姿勢を学ぶ場を開催。

講師・松川えりさんによる、レクチャーと実践ワークを組み合わせた、ESD の「ひとりひとりが自分事として学ぶ」視点を多く取り入れた、参加者参加型・実践型の講座とした。

### 3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

#### 参加者の声

- 何気ない質問が思いもよらない方向に進んだり、一見テーマに沿っていない話題も、実はその考えに至った理由があることがわかった。
- ワークを通して、他人の価値観の違いや共通点がわかったので、今後のコミュニケーションでも意識していこうと思った。
- 最初は全く見えなかったことが、対話を進めていく上で少しずつ見えてきたことがおもしろかった。全く意見が違うかと思っていた人と、共通点を見つけることができた。
- 相手の考えの背景を知るための質問をしていくことで、相手の理解が進み、対話の質がより濃いものとなったように感じた。
- 様々な立場の人と対話ができ刺激だった。
- 自分で考える、皆で話し合うというスタイルがよかった。自分の思い込みに気づくことができた。

#### 成果

- ・ 講座参加者が、講座で学んだことを活かし、それぞれのフィールドでの活躍がすすんだ。  
(参加者からの報告)
- ・ 前年度参加者が今年も参加し、初参加者のサポーターとして活躍する場面があった。
- ・ 岡山市内で、「多様な人々で考え合う、話し合う」ムーブメントの促進に寄与した。

### 4. 今後の課題と展望

今年度は、昨年度の「岡山 ESD プロジェクト事業」での進行役育成講座開催から、より幅を広げ、より多くの多様な方々が、いろいろな場における「対話」について学べるように、参加のハードルを下げるなどの設定をし、企画した。

そのため、より年齢、性別、所属、様々な方に参加いただくことができた。多様な方が参加いただいたおかげで、主旨の「多様な人々との対話」により沿った講座となったように思う。

ESD を進めていくうえで大事である、「相手の理解を深め、自分も表現する」力を身につけること、そのような場をつくる人材の育成に寄与することができた。

また、講師の人気と、講座内容のニーズが高かったためか、どの講座もキャンセル待ちが5～10名ぐらいいらっしゃった。毎回市外、県外からの参加者がいらっしゃった。

今後も、このような場のニーズをとらえ、多様な人々での対話の場の提供と、対話の場を促進する進行役の育成に力をいれていきたい。